



編集・発行

国立大学法人鹿児島大学男女共同参画推進センター 〒890-8580 鹿児島市郡元1-21-24

TEL 099-285-3012 E-mail: gender@kuas.kagoshima-u.ac.jp https://www.kagoshima-u.ac.jp/atsuhime/

■ご挨拶 総務部長 野澤 知弘

鹿児島大学は、「鹿児島大学男女共同参画基本理念・行動計画」を策定し、ライフイベント期の職員への両立支援や意識啓発等に取り組んでいます。本年度は、4月にハラスメントのない働きやすい環境作りのために、全教職員を対象にハラスメント防止啓発リーフレット及びハラスメントセルフチェックシートを配付、自己点検し、各自がハラスメント行為をしないことの宣言を行いました。また、11月に、誰にでもあるとされる無意識の偏見の悪影響を最小限に留め、一人ひとりが個性と能力を発揮できる環境整備につなげるため、リーフレット「無意識のバイアス-Unconscious Bias-を知っていますか？」（男女共同参画学協会連絡会2017年8月版）を全教職員へ配付しました。

今後も、ダイバーシティ研究環境の実現に向け、男女共同参画の取組を推進してまいりますので、本学の取組へのご理解とご支援の程よろしくお願いたします。

■鹿児島県女性活躍推進優良企業知事表彰

鹿児島大学は、女性の管理職等への登用や能力開発、子育て支援、会社を挙げた職場風土づくり等に積極的に取り組み、他の事業者の模範となる企業として、「鹿児島県女性活躍推進優良企業知事表彰」を受賞しました。

2018年11月21日に開催された「鹿児島県女性活躍推進フォーラム」にて表彰が行われ、三反園訓鹿児島県知事から表彰状の贈呈がありました。

表彰企業事例発表では、前田芳實学長が、「個性と能力を発揮できる環境整備の推進」として、管理職全員による「イクボス宣言」、管理職対象の男女共同参画トップセミナーの開催による職場風土づくり、女性の能力開発のためのセミナー開催、ライフイベント期の研究者への研究支援、働きやすい環境づくりとして全職員のハラスメントチェックシート提出等について紹介しました。



前田学長 鹿児島県知事 町田浩造(株)社長

「鹿児島県女性活躍推進フォーラム」では、八木洋介氏（前：(株)LIXIL執行役副社長人事総務・法務担当、現：(株)people first代表取締役、(株)GMG取締役）から「女性が活躍する企業が成長する理由（わけ）」と題して基調講演があり、企業の成長戦略における女性の活用や登用の必要性が語られました。また、講演後には、八木氏も参加してのワークショップが開催され女性が活躍できる環境整備等について異業種間での情報交換を図る機会となりました。

*「鹿児島県女性活躍推進優良企業知事表彰」は平成29年度に創設され、平成30年度は2企業が表彰されました。

■取組紹介

キャリア形成セミナー

2018年11月26日（月）に、「女性リーダー活躍推進に向けて」と題して女性リーダー育成セミナーを開催し32人が参加しました。男女共同参画推進室長の島秀典理事・副学長（総務担当）の挨拶に続き、講師の鹿児島県労働局雇用環境・均等室長の大庭直美氏から、各種データをもとに女性労働の現状とともに、女性の活躍を阻む壁とそれを乗り越えるために限られた時間の中で効率の良い働き方改革を推進することや無意識のバイアスをなくす必要性について講話がありました。

また、本学監査室長の古川加代子氏から、女性管理職が増えることの意義や経験談等が語られた後、参加者同士の意見交換会も行われ、個々の働き方やキャリアアップについて考える機会となりました。



介護セミナー

2018年12月13日（木）に介護セミナーを開催し、本学教職員やその家族21人が参加しました。

堀之内広子氏（鹿児島県若年性認知症支援コーディネーター）から「認知症の理解と介護に必要な情報～若年性認知症相談か

ら見えること～」と題して講話があり、参加者から「正しい知識を得ることができた」「認知症介護での悩んでいた心が軽くなった」などの声が聞かれました。

本セミナーは認知症サポーター養成講座を兼ねて実施し、参加者へ受講の証として「オレンジリング」が配付されました。

ワーク・ライフ・バランス支援セミナー

2018年12月21日（金）に、ワーク・ライフ・バランス支援セミナーを開催し、本学の管理的立場にある教職員や他大学等から42人が参加しました。

はじめに宮田裕州理事・副学長（財務担当）の挨拶に続き、安藤哲也氏（NPO法人ファザーリング・ジャパン代表理事）から「働き方改革は、生き方改革～良いライフが良いワークを生み、個人も企業も成長する～」と題して、日本社会の現状や企業における課題、課題解決のために必要な上司の覚悟や仕事や時間の無駄をなくす必要性などについて講話がありました。



*鹿児島県の女性活躍推進アドバイザー派遣事業を活用

鹿大の女性研究者に Close-up!



香西 直子 講師 (農水産獣医学域 農学系)

2006年3月 愛媛大学大学院連合農学研究所 (博士課程) 修了
2006年4月 香川大学大学院農学研究所 研究生
2008年4月 国際農林水産業研究センター 特別派遣研究員
2010年4月 国際農林水産業研究センター 任期付き研究員
2015年4月 国際農林水産業研究センター 主任研究員
2016年4月 農業・食品産業技術総合研究機構 果樹茶業研究部門 主任研究員
2017年7月 鹿児島大学農学部 農業生産科学科応用植物科学コース 講師

★研究テーマは何ですか？

果樹の安定生産に関する研究を行っています。熱帯果樹であるアボカドやマンゴーでは、着花や結実に関して、樹体養分を調べたり、生殖器官の形態観察の調査を行ったりしています。また、温帯果樹であるアーモンドやモモでは、温暖な気象条件下での開花特性などを調べています。

★研究者を目指した理由を教えてください。

大学院生の頃にタイへ6か月間留学し、現地の試験場や農家での調査を経験しました。これをきっかけに、自分が行っている調査がいつか現場の役に立つのだというやりに気づき、研究者を目指すようになりました。

★これから研究者を目指そうとする人へのメッセージ

短期間で成果を挙げられることも求められる厳しい世界ですが、自分の成果をあげることにとらわれず、自分の研究成果を必要としているのはどういう人か、現場でどういうことが問題になっているかを考えられる研究者になってほしいと思います。

★モットー

現場に足を運ぶこと、そして学生や生産者とコミュニケーションをしっかりと取る事を心がけています。デスクワークに追われて実現できないこともよくありますが、時間をうまく使って実行したいと思います。

★研究の上で苦労されたことはありますか？

留学先では、現地の研究職員や学生らと一緒に作業することがありましたが、意見が合わなかったり、コミュニケーション不足から調査が失敗したりすることもありました。こちらが意見を言うだけでなく、相手を理解するコミュニケーションをしっかりとることを学びました。



鹿児島と気象条件が似る
タイ北部の農地

■理学系における男女共同参画の推進～JST女子中高生のための理系進路選択支援プログラム～

JSTプログラム実施担当：理工学域 理学系 助教 加藤太一郎

文部科学省学校基本調査によると、鹿児島県の女子の四年制大学進学率は全国最低水準(33%程度)が続いています。また、他の都市と比較して男女間の進学率格差が顕著であることも特徴的です。現在の日本は、少子高齢化の進行などにより社会構造が大きく変化しており、従来の性別固化的役割分担意識は通用しなくなりつつあるとともに、社会の活力を将来にわたって維持していくために、女性の力を最大限発揮できる環境整備が必要です。

このような状況の下、理学部では男女共同参画に関連するプログラムに積極的に取り組み、多くの若者が論理的かつ科学的思考力を身につける機会を創出すると同時に、生徒の進路選択に多大な影響を及ぼす保護者や指導教員、ひいては鹿児島県民全体に対する意識改革に取り組んできました。中でも中高生に対する取り組みを重視しており、平成30年度JST女子中高生のための理系進路選択支援プログラム「かごしま☆科学のタネまき塾～育て！未来の理系女子～」が採択され、農学部、水産学部と協力しながら、女子中高生の理系進路選択を後押しするイベントを多数開催しました。本プログラムは平成31年度も続きます。進路説明会や出前授業・体験実験の他に、企業や研究機関で働く女性研究者との交流やインターンシップといったイベントを通して、女子中高生が大学生や研究者として活躍する未来の自分を具体的にイメージすることができるプログラムを提供していきます。 webサイト：<http://www.sci.kagoshima-u.ac.jp/science-girl/index.html>



科学体験衛星サテライト
-手作りコスメの化学-

■後期共通教育科目「男女共同参画社会」

性別に関わらずその個性と能力を発揮できる男女共同参画社会を実現するために必要な基本的な知識と多角的な視点を修得するとともに意識の醸成を図ることを目的として、平成30年度後期の共通教育科目として開講し35人が受講しました。

脳科学や法学、家政学、政治学、防災学、関連書籍等から男女共同参画を考えるアクティブラーニングを通して、「男女共同参画の視点で物事を捉え行動する意識を持つようになった」との学生からの感想が多くありました。

■連携企画紹介

男女共同参画推進センターは、他部署等と連携して以下のような取組も行いました。

●男女共同参画展：附属図書館との共催

①平成30年6月15日～8月6日 ②10月10日～12月21日
附属図書館1階エントランスに関連本や男女共同参画に関するポスター等を展示

●鹿児島大学異分野融合研究プロジェクト創出交流会 URAセンターとの共催

①平成30年9月4日 ②平成31年3月7日
本学の研究者の研究発表及び交流会

●女性研究者・若手研究者支援制度等説明会

医歯学総合研究科研究戦略会議主催、URAセンターとの共催

平成30年12月18日

男女共同参画推進センター及びURAセンターの支援制度等の説明

●女子学生のためのキャリアセミナー

日経ウーマノミクスプロジェクト、就職支援センター主催
男女共同参画推進センター共催
平成31年1月11日(金) 学習交流プラザ 学習交流ホール
基調講演及びパネルディスカッション

●女性・若手研究者国際シンポジウムin鹿児島大学

「鹿児島大学Women in Science for Health研究推進ワーキンググループ(WISH WG)」企画 URAセンター・グローバルセンターとの共同主催(特別号参照)
平成31年2月28日 基調講演及び意見交換、交流会

<今後の予定>

ランチタイム交流会 日時：2019年4月5日(金) 11:30-13:00 場所：大学本部事務局2階 第1会議室

